

2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年1月31日

上場会社名 株式会社 プロトコーポレーション
 コード番号 4298 URL <https://www.proto-g.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神谷 健司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 鈴木 毅人

TEL 052-934-2000

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	79,329	85.8	5,976	16.2	5,378	1.6	3,490	30.9
2022年3月期第3四半期	42,692	2.3	5,141	4.4	5,294	8.7	5,049	56.4

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 3,196百万円 (39.2%) 2022年3月期第3四半期 5,256百万円 (38.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	86.83	
2022年3月期第3四半期	125.69	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	61,951	42,456	68.0
2022年3月期	54,525	40,397	74.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 42,151百万円 2022年3月期 40,361百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		17.50		17.50	35.00
2023年3月期		17.50			
2023年3月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,000	65.4	7,200	12.1	7,350	11.0	4,900	16.7	121.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(注)詳細は、添付資料P.9「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	41,925,300 株	2022年3月期	41,925,300 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,704,227 株	2022年3月期	1,729,997 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	40,203,058 株	2022年3月期3Q	40,177,177 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当期の経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、経済活動や個人消費活動の正常化に向けた動きが見られたものの、ウクライナ情勢に起因する経済活動への影響や資源価格の高騰等もあり、依然として不透明な経済環境が継続しております。

こうした経済環境の中、当社グループの主要顧客であるモビリティ業界におきましては、半導体をはじめとした部品の供給不足が徐々に緩和されてきたものの、当第3四半期連結累計期間における新車販売台数は前年実績を下回る水準で推移いたしました。また、中古車登録台数についても、新車生産の停滞による影響から、前年を下回る水準で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、多様化するユーザーニーズや今後の市場環境を踏まえて策定した「中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）」に基づき、当社が保有する各種データとAI技術を駆使することで、モビリティ領域のDX化に寄与する新商品・サービスの開発・提供に取り組んでまいりました。

以上のことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は、79,329百万円（対前年同期比85.8%増）となりました。増収となった主な要因は、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社を子会社化したことに伴う事業領域の拡大によるものであります。営業利益は、上記の増収及び「MOTOR GATE」を中心としたサービスプラットフォームに関連するDX商品の提供が堅調に推移したことによる影響等により、5,976百万円（対前年同期比16.2%増）となりました。経常利益は、為替相場の変動により、為替リスクを回避するために行っていた通貨オプション取引に含み損が発生したことによりデリバティブ評価損を計上したことが影響し、5,378百万円（対前年同期比1.6%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前第1四半期連結会計期間において株式会社プロトメディカルケア（現 株式会社ハートメディカルケア）の株式譲渡に伴う関係会社株式売却益の計上があったことが影響し、3,490百万円（対前年同期比30.9%減）となりました。

②セグメント別の概況

事業のセグメント別の業績につきましては、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、事業セグメントの区分方法及び名称を変更しております。前第3四半期連結累計期間の数値につきましては、変更後のセグメント区分に組み替えた後の数値となっております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(プラットフォーム)

モビリティ業界No.1のサービスプラットフォームの構築を目指し、各事業領域におけるシェアの拡大並びに顧客当たりの取引単価の維持・拡大に努めるとともに、モビリティ領域のDX化に寄与するサービスの強化に取り組んでまいりました。当第3四半期連結累計期間におきましては、中古車領域において「ゲーネット」のコンテンツ量最大化、「ゲーネット」のバックグラウンドシステムである「MOTOR GATE」の提供及び機能向上を通じた取引拠点数の拡大等に取り組んでまいりました。

整備領域においては「ゲーネットピット」におけるコンテンツの拡充を図り、在庫管理システム「MOTOR GATE PIT IN」の提供を通じて有料掲載工場数の拡大に取り組み、新車領域においては「DataLine SalesGuide」の拡販に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は22,465百万円（対前年同期比5.0%増）、営業利益は6,609百万円（対前年同期比7.9%増）となりました。増収増益となった主な要因は、「MOTOR GATE」を中心としたプラットフォーム事業におけるDX商品の提供が堅調に推移したことによるものであります。

(コマース)

タイヤ・ホイール等の販売は、引き続き、主要取扱ブランドの販売強化に取り組むとともに、当社の「グーネット」、「グーネットピット」、「MOTOR GATEショッピング」等とのシナジーを追求することで販売機会の拡大に努めてまいりました。また、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の子会社化に伴い、商品券やギフト券等のチケット販売事業に新規進出しております。以上の結果、売上高は51,993百万円（対前年同期比184.2%増）、営業利益は489百万円（対前年同期比299.0%増）となりました。

(その他)

第2四半期連結会計期間に沖縄バスケットボール株式会社の株式を取得し、同社及び同社の子会社である沖縄アリーナ株式会社及び沖縄スポーツアカデミー株式会社を連結の範囲に含めております。

一方で前第1四半期連結会計期間において株式会社プロトメディカルケア(現 株式会社ハートメディカルケア)の株式譲渡を行ったことなどにより、売上高は4,871百万円（対前年同期比62.4%増）、営業利益は398百万円（対前年同期比2.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は61,951百万円となり、前連結会計年度末と比較して、7,425百万円の増加となりました。資産、負債及び純資産の状況につきましては、次のとおりであります。

i 資産

流動資産につきましては、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の株式取得対価の支払い並びに沖縄バスケットボール株式会社の株式取得対価の支払いに伴う現金及び預金の減少があった一方、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の子会社化に伴う棚卸資産の増加などから、41,572百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3,937百万円の増加となりました。

固定資産につきましては、コスミック流通産業株式会社及び沖縄バスケットボール株式会社の株式取得に係るのれんを計上したことなどから、20,378百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3,488百万円の増加となりました。

ii 負債

流動負債につきましては、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の子会社化に伴い短期借入金が増加したことなどから、17,991百万円となり、前連結会計年度末と比較して、4,955百万円の増加となりました。

固定負債につきましては、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の子会社化に伴い長期借入金が増加したことなどから、1,503百万円となり、前連結会計年度末と比較して、410百万円の増加となりました。

iii 純資産

剰余金の配当が1,406百万円発生した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益3,490百万円の計上により、純資産は42,456百万円となり、前連結会計年度末と比較して、2,059百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月31日に公表いたしました業績予想に変更はございませんが、今後の進捗状況等に応じ、精査の上、開示すべき事象が生じた場合には速やかに公表いたします。

なお、業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき算定しておりますが、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況の変化等により、実際の業績等は大きく異なる可能性があることをご了承ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,159	24,078
受取手形及び売掛金	5,612	6,281
棚卸資産	4,208	8,137
その他	1,662	3,083
貸倒引当金	△7	△8
流動資産合計	37,635	41,572
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,433	5,767
土地	4,588	4,721
その他（純額）	723	751
有形固定資産合計	10,744	11,240
無形固定資産		
のれん	547	2,504
その他	1,403	1,731
無形固定資産合計	1,950	4,235
投資その他の資産		
投資有価証券	2,343	2,392
その他	1,910	2,565
貸倒引当金	△58	△55
投資その他の資産合計	4,195	4,902
固定資産合計	16,890	20,378
資産合計	54,525	61,951

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,666	3,200
短期借入金	2,550	6,050
1年内返済予定の長期借入金	224	161
未払費用	2,387	2,755
未払法人税等	1,594	863
契約負債	33	38
賞与引当金	165	173
商品保証引当金	18	17
災害損失引当金	41	—
その他	3,353	4,731
流動負債合計	13,035	17,991
固定負債		
長期借入金	230	552
役員退職慰労引当金	238	252
退職給付に係る負債	91	128
資産除去債務	281	342
その他	251	227
固定負債合計	1,093	1,503
負債合計	14,128	19,495
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,849	1,849
資本剰余金	2,058	2,070
利益剰余金	37,121	39,217
自己株式	△1,279	△1,260
株主資本合計	39,750	41,877
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	610	286
為替換算調整勘定	0	△11
その他の包括利益累計額合計	611	274
非支配株主持分	35	304
純資産合計	40,397	42,456
負債純資産合計	54,525	61,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	42,692	79,329
売上原価	24,103	58,378
売上総利益	18,589	20,951
販売費及び一般管理費	13,447	14,975
営業利益	5,141	5,976
営業外収益		
受取利息及び配当金	5	9
持分法による投資利益	0	2
為替差益	230	73
その他	36	62
営業外収益合計	272	147
営業外費用		
支払利息	7	12
投資事業組合運用損	20	25
デリバティブ評価損	73	683
その他	17	23
営業外費用合計	119	745
経常利益	5,294	5,378
特別利益		
固定資産売却益	18	0
関係会社株式売却益	2,146	—
負ののれん発生益	—	11
その他	478	—
特別利益合計	2,642	12
特別損失		
固定資産除売却損	5	7
和解金	—	1
特別損失合計	5	9
税金等調整前四半期純利益	7,931	5,381
法人税、住民税及び事業税	2,167	2,030
法人税等調整額	712	△181
法人税等合計	2,879	1,848
四半期純利益	5,051	3,532
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	41
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,049	3,490

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	5,051	3,532
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	530	△324
為替換算調整勘定	△326	△12
その他の包括利益合計	204	△336
四半期包括利益	5,256	3,196
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,252	3,154
非支配株主に係る四半期包括利益	4	41

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年8月18日開催の取締役会決議に基づき、当社の中長期的な株主価値に対する当社グループ従業員のモチベーション向上を企図して、当社の発行する普通株式を、プロトコーポレーション社員持株会の会員に対し、特別奨励金として付与するインセンティブ・プランの導入を決定いたしました。当社は、2022年10月7日、プロトコーポレーション社員持株会を処分先とする第三者割当による自己株式の処分を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、その他資本剰余金が11百万円増加、自己株式が19百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末においてその他資本剰余金が34百万円、自己株式が1,260百万円となっております。

自己株式処分の概要

(1) 処分の期日	2022年10月7日
(2) 処分する株式の種類	当社普通株式
(3) 処分する株式の数	25,930株
(4) 処分価格	1株につき1,200円
(5) 処分総額	31,116,000円
(6) 処分の方法	第三者割当
(7) 処分先	プロトコーポレーション社員持株会

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来に渡って適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	プラット フォーム	コマース	その他	計		
売上高						
メディア	17,157	—	—	17,157	—	17,157
サービス	4,241	—	—	4,241	—	4,241
物品販売	—	18,293	—	18,293	—	18,293
チケット販売	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	2,633	2,633	—	2,633
顧客との契約から 生じる収益	21,399	18,293	2,633	42,326	—	42,326
その他の収益(注)3	—	—	366	366	—	366
外部顧客への売上高	21,399	18,293	2,999	42,692	—	42,692
セグメント間の内部 売上高又は振替高	23	0	1,213	1,237	△1,237	—
計	21,422	18,294	4,213	43,930	△1,237	42,692
セグメント利益	6,123	122	388	6,634	△1,492	5,141

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去△28百万円、全社費用△1,463百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	プラット フォーム	コマース	その他	計		
売上高						
メディア	18,106	—	—	18,106	—	18,106
サービス	4,359	—	—	4,359	—	4,359
物品販売	—	22,540	—	22,540	—	22,540
チケット販売	—	29,452	—	29,452	—	29,452
その他	—	—	4,757	4,757	—	4,757
顧客との契約から 生じる収益	22,465	51,993	4,757	79,215	—	79,215
その他の収益(注)3	—	—	114	114	—	114
外部顧客への売上高	22,465	51,993	4,871	79,329	—	79,329
セグメント間の内部 売上高又は振替高	49	0	1,485	1,535	△1,535	—
計	22,514	51,993	6,357	80,865	△1,535	79,329
セグメント利益	6,609	489	398	7,497	△1,521	5,976

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去△32百万円、全社費用△1,489百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コマース」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にコスミック流通産業株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めました。なお、当該事象によるのれんの増加額は1,082百万円であります。

「その他」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間に沖縄バスケットボール株式会社の株式を取得し、同社及び同社の子会社である沖縄アリーナ株式会社及び沖縄スポーツアカデミー株式会社を連結の範囲に含めました。なお、当該事象によるのれんの増加額は1,247百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「コマース」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にコスミックGCシステム株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めました。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、11百万円であります。

3 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めたことで、「コマース」のセグメント資産が前連結会計年度末と比較して、4,110百万円増加しております。

第2四半期連結会計期間において、沖縄バスケットボール株式会社の株式を取得し、同社及び同社の子会社である沖縄アリーナ株式会社及び沖縄スポーツアカデミー株式会社を連結の範囲に含めたことで、「その他」のセグメント資産が前連結会計年度末と比較して、2,877百万円増加しております。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、現状の組織体制をより的確に反映するため、報告セグメントを従来の「自動車関連情報」「生活関連情報」「不動産」「その他」から、「プラットフォーム」「コマース」「その他」に変更しております。また、これに伴い、顧客との契約から生じる収益を分解した情報を従来の「広告関連」「情報・サービス」「物品販売」「その他」から、「メディア」「サービス」「物品販売」「チケット販売」「その他」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報等については変更後の区分により作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。